

台湾の統治実績を総括や回顧した貴重史資料を復刻。

# 台湾史研究叢書

全五巻

檜山 幸夫 編・解説



日清両大臣北京において応接の図(1874年)

クレス出版

## 台湾史研究叢書 全五巻

檜山幸夫 編・解説

- 第一巻 台湾史と樺山大将 定價26,000円(税別) ISBN978-4-87733-623-3
- 第二巻 西郷都督と樺山総督  
明治七年 生蕃討伐回顧録 定價22,000円(税別) ISBN978-4-87733-624-0
- 第三巻 台湾殖民発達史 定價12,000円(税別) ISBN978-4-87733-625-7
- 第四巻 台湾文化史説 定價 9,000円(税別) ISBN978-4-87733-626-4
- 第五巻 台北市政二十年史 定價26,000円(税別) ISBN978-4-87733-627-1

A 5 判/上製函入/クロス装 平成23年12月刊行

揃定價95,000円(税別) ISBN978-4-87733-628-8(セット) C3323

クレス出版好評既刊書

## 日本植民地下の朝鮮研究 全9巻

広瀬 順皓 編

- 第1巻 総督政治 全 青柳綱太郎 編 定價18,000円(税別) ISBN978-4-87733-563-2
- 第2巻 朝鮮統治論 初版 青柳綱太郎 著 定價24,000円(税別) ISBN978-4-87733-564-9
- 第3巻 最近の韓国 松宮春一郎 著  
朝鮮の人口研究 善生 永助 著
- 第4巻 朝鮮統治秘話 朝鮮行政編輯局 編 定價26,000円(税別) ISBN978-4-87733-565-6
- 朝鮮に於ける内地人 朝鮮総督府 編
- 近代朝鮮史研究 朝鮮総督府 編 定價24,000円(税別) ISBN978-4-87733-566-3
- 第一回全4巻 揃定價 92,000円(税別) ISBN978-4-87733-567-0(セット)
- 第5巻 近代朝鮮史 上巻 菊池 謙讓 著 定價18,000円(税別) ISBN978-4-87733-590-8
- 第6巻 近代朝鮮史 下巻 菊池 謙讓 著 定價16,000円(税別) ISBN978-4-87733-591-5
- 第7巻 朝鮮文化史論 細井 肇 著 定價18,000円(税別) ISBN978-4-87733-592-2
- 第8巻 朝鮮史話 幣原 坦 著  
朝鮮開教五十年誌 朝鮮開教監督部 編
- 天道教と侍天教 渡辺 彰 著 定價24,000円(税別) ISBN978-4-87733-593-9
- 第9巻 朝鮮は起ち上る 鎌田沢一郎 著  
朝鮮開拓誌 原田 彦熊 著 定價18,000円(税別) ISBN978-4-87733-594-6
- 第二回全5巻 揃定價 94,000円(税別) ISBN978-4-87733-595-3(セット)

### 朝鮮総督府 生活状態調査 地域編

全5巻 広瀬 順皓 編  
大正末年から昭和10年にかけて朝鮮総督府官房庶務部調査課が刊行した一連の調査資料のなかで、生活状態調査として刊行されたもののうち、朝鮮総督府嘱託善生永助が編纂執筆した調査報告書。  
①水原郡 ②済州島 ③江陵軍 ④平壤府 ⑤慶州郡  
揃定價75,000円 ISBN4-87733-321-5(セット)

### 朝鮮総督府統計要覧

全10巻 朝鮮総督府編 広瀬順皓 編  
土地、気象に始まり、産業、金融、財政、交通、警察、衛生等、植民地朝鮮をデジタル化した経済的社会的研究の基礎資料。多くの項目については「最近数年分を列記して」いるから、各項目にかかるその変遷消長の状態を通観することができる。  
揃定價158,000円 ISBN4-87733-257-X(セット)


### 増補朝鮮総督府三十年史

全3巻 朝鮮総督府編  
朝鮮総督府の施政を歴代総督毎に分けて詳細に記述し、日本の朝鮮支配四十年を通覧する第一級史料。「施政方針」「財政」「産業」と続く各項目は、当該時期の朝鮮統治を簡潔に物語り、日本の朝鮮植民地支配研究の辞書代わりにも利用できるレファレンス・ブック。  
揃定價36,000円 ISBN4-87733-062-X

### 朝鮮満蒙地誌叢書

全3巻 朝鮮及満州社編  
大正7年に刊行された『朝鮮及満蒙叢書』を底本とする朝鮮・満州・シベリアの貴重文献。日本近代史、東アジア近代史研究必読書。  
朝鮮地誌 定價26,000円 ISBN4-87733-081-X  
満州地誌 定價16,000円 ISBN4-87733-082-8  
西比利亞地誌 定價 8,000円 ISBN4-87733-083-6

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋  
☎(03)3808-1821 ㊟(03)3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

 株式会社クレス出版

中京大学

檜山幸夫

歴史学研究を進展させていくために求められる研究基盤整備の一つに、様々な領域や分野を網羅する多種多様な史料を如何に確保していくかにある。台湾史研究では、台湾総督府文書などの文書史料をはじめ、官報や府報、各種報告書や編纂書、図書文献・新聞雑誌・統計資料・写真帳などの文献図書資料などを簡単に入手し容易に利用することができるといったような研究環境の整備が求められている。

だが、日本統治下台湾史の研究にとつて宿命的な欠陥は、かかる史料が日本と台湾とに分かれていくことと、日本国内においても各所に分散し纏まって存在していないことにある。このため、台湾史研究ではこれらの欠陥を補うために、重要な史料を発掘し、それらの文書史料を翻刻したり文献資料を復刻して、研究基盤の整備を行ってきた。

しかし、ここで行われてきた文献資料の復刻は、どちらかといえば代表的著作物や関心の高い分野、さらに資料群として大きな塊としてのものに重点が置かれてきたこともあり、必ずしも研究の基礎となるべき文献資料の総てが網羅されてきたわけではなかった。しかも、従来、翻刻されたり復刻されたりしてきた史料は、比較的統治支配を記録した文書史料や刊本資料が多かった。だが、本格的に台湾史を研究するためには、日本はどのように台湾を統治し支配したのかという執行者の記録だけではなく、統治者自身がそれまでの台湾統治支配をどのように総括し、それをその後の統治支配の施策に活かしているかというところを提起した記録や刊行物を欠かすことはできない。台湾総督府も、統治三〇周年を契機に史料の収集と台湾史の編纂とを目的に台湾総督府史料編纂委員会を設置していたように、大正期に入ると台湾ではそれまでの統治実績を総括したり回顧しようとする動きがみられた。つまり、このような視点からの史料の翻刻や復刻が求められよう。

このような学術的目的から、この度、「台湾史研究叢書」のシリーズを刊行することになった。第一輯では、台湾統治史の前史ともいえるべき明治七年台湾出兵（征台の役）にかかわる基本的文献である『台湾史と樺山大将』、『西郷都督と樺山総督』、『生蕃討伐回顧録』と、台湾統治政策や治績を総括しそれを踏まえて次の段階への施策を提起するために著された『台湾殖民発達史』や『台北市政二十年史』、さらに、統治四〇周年を踏まえて台湾全体を回顧しながら将来的展望を描こうとした『台湾文化史説』を復刻することにした。このような資料の復刻を通じて、台湾史研究のさらなる発展を期待したい。

第一巻 台湾史と樺山大将

第四編 初代臺灣總督としての樺山大将

第一章 總督府の組織と始政

第一節 樺山大将初代總督の印綬を受く

日清戦争に勝利の結果、明治二十八年四月十七日、我全權大臣伊藤博文公と、清國全權大臣李鴻章との間に締結せる馬關條約に依り、臺灣及澎湖列島我領有に歸し、茲に我國最初の殖民地を獲得したのである。然るに初め馬關條約成立するや、列國は虎視眈々、東洋の風雲暗澹たりしが、果然三國の干渉となり、遼東半島還附の弱むを得ざるに至つた。亦臺灣にあつては、元の巡撫唐景崧等の自立に依り、全島麻の如く亂れ、而かも列國は、殖民地經營に經驗を有せざる我國が、如何に之を統治するかを凝視し、到底失敗を免かれざるべしとは、彼等の定評であつた。此時に當り初代總督の印綬を受け、閩外の重任を雙肩に荷ふたのは、臺灣に最も深き縁故を有し、臺灣百年の知己である海軍大將子爵樺山資紀

第五卷 台北市政二十年史

第四章 市制

第一節 臺北市の沿革

臺北市の歴史を按ずるに往昔臺北平野一帯の地は土蕃が各所に原始的生活を営んでゐたのであるが、明朝の末には早くも既に漢人の來往もあつた様である。夫れから十七世紀の初葉西班牙人の基隆占據時代より蘭人占據時代を経て清國領有迄は全く荒蕪に任せ土蕃の逐鹿に委し治域の外に置かれたるが、康熙四十七年（實永五年）泉州人陳賴章なる者が官に請ふて、大加納堡（現在の臺北市）の地の開墾に着手したのが實に臺北開發の第一歩であつて、この時代より泉州人の移住漸く多く酒肉、布片等を土蕃に與へて彼等と土地の開墾を約し之が拓殖に努めた、雍正年間（約二百年前）に至つては淡水河流域に據つて一小部落を形成し遂に艋舺の基を開いた。

艋舺（今の萬華）の名は蕃語の莽甲即ち獨木舟から出たもので屈尺竝に大嶽嶽等の蕃人が舟を溪流に下し、この地に來つて交換を爲したるより起れるものゝ如く、當時艋舺は茅屋點々たる寒村にして僅かに蕃薯の市場たるに過ぎざりしも、乾隆の初年（皇紀二二九五年頃）には漳州人の渡來するあり、林成祖なる者は今の板橋を根據として淡水河以西を開拓し、郭元汾なる者は新店溪一帯を開墾するに及び艋舺は其の中心地として重要な位置を占め、遂に乾隆の中葉この地に都司を置かれ、乾隆五十三年（皇紀二四四八年）八里全口即ち淡水港の左岸を開きて對岸福州泉州等の航路と爲すや運輸の利便は益々上流艋舺方面の發達を促進し、嘉慶十四年（皇紀二四六九年）には水師游擊を駐屯せしむるに至つた。

爾來漳・泉州人の來往すること潮の如く地方の發達は駁々として止まず、終に人繁く地少きの形勢を呈し、侵佔禁止の制あるにも拘らず、遂に土蕃の領域を侵略して餘す所なきに至り、土蕃は其の壓迫に堪へずして大部分は嘉慶、道光年間（皇紀二四四六年―二五二〇年）相率て山地に退轉し、唯だ少數のものゝみ一隅に屏息して餘喘を保つのみとなつた。

台湾史研究叢書 全五卷

第一巻

台湾史と樺山大将

藤崎清之助著／国史刊行会／昭和元年

【内容】台湾史（台湾地名考、帝國領有前の台湾、日本人の海外発展と台湾、日清戦役と領台、帝國領有後の台湾、台湾の住民、生蕃の今昔、明治七年の征台史（征台の発端、副島外務卿及樺山少佐の渡清、対清談判の経過、渡清後の樺山少佐、樺山少佐其の他の台湾視察、台湾より上海へ引揚後の樺山少佐、再渡台後の南部視察、打狗以北の視察、征台軍の進発、征戦の経過、征戦後の南部視察、打狗と番情並に清官の行動、日清談判の経過、征台軍の凱旋と其の前後、補遺）、南澳蕃探險事蹟（樺山少佐南澳探險の途に上る、蘇澳港著後の行動、南澳蕃人と会見顛末、樺山少佐と会見の蕃人、樺山少佐の蕃人愛撫、探險の結果）初代台湾總督としての樺山大将（總督府の組織と始政、行政組織、總督及民政局長の諭示、台北県知事の諭示、匪乱鎮定、司法制度、交通及通信、教育制度、医事及衛生施設、台湾の阿片制度、理蕃事業、領台叢記）

第二巻

西郷都督と樺山総督

西郷都督樺山総督記念事業出版委員会著・発行／昭和十一年

【内容】明治七年征蕃の役、西郷従道小伝、樺山資紀小伝、我が父を語る、西郷都督と樺山総督の記念事業実行経過、資料篇（台湾信報、処蕃提要、樺山資紀台湾記事、大久保利通日記、処蕃趣旨書、大倉男回顧談、征蕃役関係文献目録、征蕃役戦病死者名簿）

明治七年 生蕃討伐回顧録

落合泰蔵著・発行／大正九年

【内容】生蕃討伐の起因、台湾蕃地事務局設置及出征幹部員、清国視察員、出征軍隊、出動軍艦及運送船、従軍の人員職工、出兵躊躇、出征軍の艦船長崎港解纜、西郷都督琅 に出陸、生蕃総攻撃、酋長降伏、日清紛議中に於ける出征軍及本国の状況、軍隊及各部員の交代、日清紛議の顛末、征台軍の撤退、材料の準備、衣服、糧食、衛生、患者の救、病院及其惨状、屍体の処置、宮内省より特派せる独逸医師、風土大略

第三巻

台湾殖民発達史

東郷実著／晃文館／大正五年

【内容】総論、統治組織、法制、軍備、理蕃治匪、人口の変遷、移民、産業、貿易、交通通信、財政、専売、教化、衛生、結論

第四巻

台湾文化史説

台湾州共栄会台南支会著・発行／昭和十年

【内容】国史より見たる三百年記念、ゼーランヂヤ築城史話、蘭人の蕃社教化、台湾蕃語文書、安平城趾と赤嵌楼に就て、台湾三百年の史料、鄭氏時代の文化、清朝時代の台湾文化

第五巻

台北市政二十年史

台北市役所著・発行／昭和十五年

【内容】栄光に輝く台北、土地及気象、戸口、市制、財政、教育、社会教育、神社、宗教、社会事業、兵事、勸業、土木建築、上水道、衛生、交通運輸、市営乗合自動車、公共施設、警察、史蹟、官衙及名勝遊覽地、事変と台北市



樺山侯肖像



西郷侯肖像

海軍大將伯耆藩樺山資紀